



# ハマリバ収穫祭2005～改善最前線～

## 職員が考動した取り組みがここに集い、新たな改善が今、拡がる

ハマリバ収穫祭2005  
運営委員会



### はじめに

平成17年12月20日、ハマリバ収穫祭2005が横浜市開港記念会館で開催された。

ハマリバ収穫祭とは、横浜市職員が取り組んだ改善事例の発表会で、昨年度に引き続き第2回目の開催である。このタイトルは、横浜市が推進する「横浜（ヨコハマ）リ・バイバルプラン」から作った造語である。

開催の目的は、次の2点である。  
(i) 取り組みの共有によって、改革が「当たり前」に行われる職場風土作りを目指す。  
(ii) 改革の成果を広く発信し、自治体における改革・改善の先導役を担う。

### 「改善最前線」と「考動」

2005年9月、第1回目のハマリバ収穫祭2005運営委員会が行われた。運営委員は公募によって集まった若手職員10人。

前回は、行政の発表会であるにもかかわらず市民の方からも好評を得た。そこで、2回目となる今回は、より成果を上げることが目標にし

て、まずは今回のコンセプトを表現する副題とキャッチフレーズを作成するために、運営委員全員がいろいろと悩み知恵を絞った。

その結果、副題は「改善最前線」に決定した。単に改善や改革を行うのではなく、本市の取り組みにより、全国の行政改革における最前線を走っていきたい、という意識と自負を表す言葉にした。

キャッチフレーズは「職員が考動した取り組みがここに集い、新たな改善が今、拡がる。」とした。この中でも特にこだわったのは「考動」という言葉だ。ただ単に、言われた事をやるのではなく、「職員自らが考えて動く」「考動」という視点で、運営委員が考えた造語である。

### 開催へ向けて

(1) PRと事前投票  
副題とキャッチフレーズを決定し、いざ開催へ向けて動き出した運営委員会であったが、事ある毎に意識した点があった。

それは「市民」の存在である。職員が改善に取り組むのは、市民にとってよりよい横浜市とするためである。そこで、今回は市民にもっとハマリバ収穫祭を知っていただき、参加を促進する方法として、事前投票を実施することにした。それにより、当日会場に来られない市民にも事例を紹介し、また、グランプリ選定に

参加してもらえたらと考えたからである。事前投票は、市役所のホームページからのメール投票と、18区役所に設置した投票箱により実施した。投票メット直前には、運営委員2、3人でチーム編成し18区役所を回る投票キャンペーンも行った。

更に、周知活動を強化し、様々な媒体を利用してPRに努めた。具体的には、市営地下鉄のテロップ、tvkやFMヨコハマといった地元メディアを利用し、事前投票と開催の案内を行った。

同様に、職員にもハマリバ収穫祭を広く周知するため、ポスターや庁内放送で開催告知を行うとともに、電子メールと投票用紙での事前投票を行った。その結果、事前投票は市民1145票、職員944票、合計2089票が集まった。

### (2) 事例選定

「市民」を意識した取り組みを、という点について述べたが、運営委員会の事例選定基準として以下の5つを設定した。

- ① 市民満足度が向上したか
  - ② 職員満足度が上がったか
  - ③ 職場の雰囲気UP、作業効率UP
  - ④ 他部署への波及効果があるか
  - ⑤ 目からウロコ（発想の転換）
- ①は、単なる職場や行政の自己満足ではなく、市民に評価されるものであることを第一のポイントとした。

②は、市民に満足していただくには、まず職員の満足度も高くなければならない。改善といえながら、非効率化や勤務状態の悪化が著しいようでは、真の改善・改革とは言えないと考えた。

③は、今回のキャッチフレーズにもある様に、拡がりを意識した。改善の取り組みには、その職場固有の事情によるものもあるが、できる限り他部署が参考とし、取り入れやすい事例を、と考えた。

④は、コスト意識を問うこととした。改善に多くの費用や労力を費やしても、それに見合った効果のないものは、税金の無駄遣いとも捉えられかねない。

⑤は、いかに既成概念や前例踏襲から離れ、自由に発想したかをポイントにした。

以上の基準をもとに集まった事例は347にものぼった。この数を見ただけで、様々な改善の取り組みが各部署で行われていることが見て取れた。

今回はこのうち、各局区事業本部から推薦された101事例を対象に、運営委員会が、5つの基準から判断して、ハマリバ改善グランプリでの発表事例として15件を選定した。

この15件を選定するのは非常に困難な作業であった。どの事例も優れたものが多く、最終的には運営委員10人の意見を点数化した。15件以外にも紹介したい事例が数多くあり、

## プログラム

10:30	開会
10:35	アントレプレナーシップ事業 局区横断課題解決案作成チーム 業務改善提案 職員技術提案
12:00	午前の部 終了
13:00	午後の部 開始
13:05	ハマリバ改善グランプリ
15:05	改善事例まだあるコレクション
15:15	休憩&投票
15:25	企業等派遣研修者報告 予算におけるメリットシステム 横浜火種の会 経営リーダー養成研修 ハマリバ広報大賞 開港150周年記念事業
16:20	表彰式・コメンテーターによる講評
16:50	市長講評
17:00	閉会

16位から30位に入った事例を、1事例約20秒のパワーポイントで紹介することにした。

それでも、正直なところまだまだ紹介できない事例は多くあり、30件しか紹介できなかったのは大変惜しい、という思いがある。

(3)他の職員表彰とのコラボレーション  
今回は、頑張って取り組んでいる職員を知って欲しい、改善事例を共有して欲しいという思いから、他の職員表彰制度による表彰なども集約し、ハマリバ収穫祭の一部として取り入れた。

具体的には、今年度新たに設けられたハマリバ広報大賞を始め、職員技術提案、企業等派遣研修者報告、開港150周年記念事業など、計10件のプレゼンテーションや発表を行った。

プレゼンテーション以外にも、14の会場展示を行った。環境創造局が花壇を設置したり、消防局はPR用の着ぐるみマスコットを登場させたりと、各々の熱意が伝わる賑やかな

ものとなった。

この他、18区独自の取り組みを一同に紹介する展示スペースを設けた。これは準備を進めていく中で出てきたアイデアで、時間が十分にならないうちでの各区との調整など、苦労も多かった。個人的には、このスペースは各区の特色を知ることができる面白い場であったと感じている。

## 当日の様子

### (1)概要

運営委員会全員が、今年は何れかの方が来場してくださるのかと、やさしさながら当日を迎えた。だが、10時の開場と共に多くの方々来場し、会場内では立見が出るほどの盛況となった。

その他にも福祉局「わたしは街のパン屋さん」の出張パン販売や、水道局のペットボトル水「はまっ子どろろ」の販売が行われ、昼時には買い求める客で混雑した。

最終的には、市民103人、他都

市職員等70人、横浜市職員810人の計983人が来場した。

### (2)ハマリバ改善グランプリ

15件の改善事例は、5分という持ち時間の中でプレゼンテーションが行われた。短い時間ながら、その内容は、パワーポイントを利用したオンラインドックスなどのから、落語形式、寸劇などバラエティに富み、見ている者を飽きさせないだけでなく、見入ってしまうものだった。

これは、形式にとられない姿勢を表すこととなり、参加者からも「プレゼンテーションの手法が非常に参考になりました」という感想をいただいた。

事前投票と会場での投票、及び3人のコメンテーターの審査点を合計した結果、グランプリ(1位)は港南区地域振興課の「家庭・地域でできる防犯・防火・交通安全ポケットブックを作成しました」、準グランプリ(2位)は青葉区納税課の「3人1組のチームで文殊の知恵―滞納整理に怒涛の進撃」、考動賞(3位)は泉山区政推進課の「ティーンエイジャーのための赤ちゃんを知る講座」が選ばれた。

表彰式では、中田市長が舞台上で直接署名した表彰状が渡された。

最後の講評で、市長は「自ら考え取り組むという考動のもとに、今後も楽しんで自由な発想で改革の取り組みを続けていく欲しい」と強調した。

## 評価と今後

来場者へのアンケートでは次のような声を聞くことができた。「従来の公務員像を壊された気がした。他の自治体への影響力をさらに増して頂きたいです。」「横浜市のパワーの一端を知ることができました。」

ここまでの感想は予期しておらず、大変嬉しいものであった。今後は、この様な改善の取組が自然発生的に起こる組織風土作りが課題になっていくだろうと感じた。

また、今回集約した事例が今後活かされるよう、運営委員会では事例集の作成に取り掛かっている。この事例集を活用することにより、改善・改革の事例を市役所全体で共有し、新たな取り組みに繋げていきたい。

△田邊俊一 泉区戸籍課登録係

